

令和5年度 林業試験研究推進計画書

1 課題名	(大項目)	中山間地域振興	
	(小項目)	特用林産物の振興	
	(課題名)	土佐備長炭原木確保のためのウバメガシ林造成に関する研究	
2 研究期間	令和4～8年度	3 総括責任者	森林経営課 藤本 浩平

4 背景と目的

高知県は平成26年次より白炭生産量が全国1位になり、現在、土佐備長炭の生産量や生産者を増大させる取組を展開している。しかし、備長炭の原木となるウバメガシの生育地の多くは海岸近くで、崖など地形の制限や国立公園など法規制があり、伐採が可能な箇所は限られている。また、薪炭林の皆伐面積の増大、獣虫害の被害等によって、今後の安定的な原木の確保に不安を抱えている。

伐採されている天然林の多くは、高齢大径木で構成されている。現在、択伐施業も行っているが、大径木であるために皆伐施業を余儀なくされているのが現状である。伐採後の更新は切り株からの萌芽による天然更新を期待しているが、他樹種との競合や立地条件等の環境が様々である。

低コストで普及が期待できるウバメガシ林の造林技術の確立が急務である。また、花粉症対策として針葉樹人工林皆伐地への広葉樹植栽が期待されており、備長炭の生産地ではウバメガシ林への誘導が検討されている。

そこで、萌芽による天然更新とともに、人工林皆伐地での植栽による更新を検討し、現場に導入できる造成技術を開発し、持続的に原木供給できるウバメガシ林（薪炭林）の再生を目指す。

5 到達目標

備長炭原木の安定確保のためのウバメガシ林造成技術の確立

6 研究年次計画

試 験 計 画		担当者
試験項目・試験内容	試験年度	
1 広葉樹薪炭林での原木林造成	R4～R8	森林経営課 藤本浩平 黒岩宣仁 山崎敏彦 中村知道
1) ウバメガシがみられる薪炭林の管理		
2) ウバメガシがみられない薪炭林での植栽木の継続調査		
2 針葉樹人工林の皆伐後の原木林造成	R4～R8	
1) 広葉樹がみられる林分の植栽方法の検討		
2) ウラジロ型林床での植栽方法の検討		
3 ウバメガシコンテナ苗の育成方法の検討	R4～R8	
4 マニュアルの作成	R7～R8	

7 当年度研究実施計画

- 1) ヒノキ林皆伐跡地のウバメガシ植栽試験地成長量調査、競合植生調査
- 2) 大径ウバメガシ林の試験地設定および伐採地の萌芽調査
- 3) ウバメガシコンテナ苗の育苗試験
- 4) ウラジロ型林床のヒノキ林の伐採前調査および植栽